

パブリック・サービス研究分科会 10 月 「図書館力」研究グループ報告書	
日時	2011 年 10 月 19 日(水)
場所	武蔵大学
記録	市川 (法政大学)
参加者	阿部(早稲田大学)、池上 (東洋英和女学院大学)、菅原 (中央大学)、市川 (法政大学)

## 作業内容

### ① 日米大学図書館における学習支援事例の比較考察

分担して調べてきた日本とアメリカの大学図書館における学習支援事例を共有し、比較考察を行った。

- ・日本とアメリカの学習支援では、ラーニングコモンズや情報リテラシー教育等、同じような取組が行われている。
- ・当初予想していた「アメリカに比べ日本の取組は遅れている」という認識とは違い、日本においても充実した学習支援を行っている大学図書館も数多くある。
- ・学習支援を進める上での悩みや課題も、共通していることが多い(教職協働や書庫狭隘化等)。
- ・しかし、ライブラリアンの専門性、サブジェクトの有無については大きな差がある。

### ② 学士力育成に向けた日本の大学図書館の方向性

比較考察の結果、日本の大学図書館において教育、研究、学習支援を向上させるには、図書館間連携(コンソーシアム)により互いに補い合うことが有効であると思われる。

学士力育成に寄与できるコンソーシアムによる取組とは何か。

- ・コンソーシアムでサブジェクトを割り振り、コレクション構築を行う。(国立大学では雑誌の分担収集等が行われている。)
- ・大学の特色ごとの保存資料の決定、保存資料情報の共有(書庫狭隘化への対応)。
- ・コンソーシアム内での研修や人事交流による図書館員の養成、スキルアップ。
- ・学生、教員の大学図書館相互利用(大学間単位互換の動きにも対応)(東日本大震災後に全国で行われた、被災地の大学の学生、教員への大学図書館の利用開放の事例)

以上のようにコンソーシアムを組み、大学の図書館力を強化することで、自校の学生だけでなく、日本全体の学士力育成に貢献できる。

## 次回までの課題

・11月例会1週間前までに、下記担当部分のパワーポイントを作成し、全員にメールで送信する。  
「図書館力～学士力育成に向けて～」(各章5枚前後)

1. 問題提起(池上)
2. 日本の大学図書館事例(市川)
3. アメリカの大学図書館事例(ワシントン大学、マサチューセッツ大学アマースト校)(武藤)
4. 日米比較考察(菅原)
5. 図書館力強化に向けて(阿部)

- ・11月例会までにパワーポイントを確認し、修正点をまとめてくる。
- ・11月例会時に修正点のすり合わせを行い、パワーポイントを完成させる。

(以上)